

2026年5月13日

株式会社小田急箱根

## 登録有形文化財「白雲洞茶苑」で抹茶体験イベントを開催！ ～近代茶人が愛した由緒あるお茶室でお抹茶を点てられます～

株式会社小田急箱根(本社:神奈川県小田原市 社長:水上 秀博)が運営する箱根強羅公園にある「白雲洞茶苑」では、5月18日(月)と5月19日(火)に初の試みとなるお客さま自らがお抹茶を点てて召しあがる抹茶体験イベントを開催します。伊藤園ティーテイスターをゲストにお招きし、白雲洞茶苑の歴史に触れながらお抹茶体験をお楽しみいただくことができます。

白雲洞茶苑は、強羅エリアを開発し実業家としても知られる益田孝(鈍翁)によって、多くの方に親しみやすい「田舎家の席」として1910年代に建設され、1922年には原富太郎(三溪)、1940年には松永安左エ門(耳庵)に引き継がれました。こうした明治・大正・昭和を代表する三大茶人の想いを引き継ぎ、体験イベントを開催いたします。

「抹茶体験イベント」の概要は下記のとおりです。



白雲洞茶苑「白雲洞」



イメージ

### 記

#### 1. 「抹茶体験イベント」

- (1) 体験内容 伊藤園ティーテイスターをゲストにお迎えし、白雲洞茶苑の歴史やお抹茶の点て方を学びます。体験後は白雲洞茶苑の観覧もお楽しみいただけます。(お抹茶・お菓子付)

※体験後にはアンケートにご回答いただきます

(2) 開催日時 ①2026年5月18日(月)

午前の部 11:00～12:30 (受付終了 12:00)

午後の部 13:30～16:00 (受付終了 15:30)

②2026年5月19日(火)

午前の部 10:00～12:00 (受付終了 11:30)

午後の部 13:00～16:00 (受付終了 15:30)

(3) 場所 白雲洞茶苑「白雲洞」

- (4) 対象人数 1回につき最大5名程度  
 ※先着順にご案内します  
 ※事前予約は行っておりませんので予めご了承ください  
 ※未就学生は付き添いが必要です
- (5) 体験時間 約20分～30分
- (6) 体験料 無料(通常1人750円)  
 ※別途箱根強羅公園入園料が必要です
- (7) 商品販売 本イベントを記念して、自宅でもお抹茶が気軽に楽しめる抹茶セット「抹茶ことはじめ」を5月18日より園内のおみやげショップにて販売いたします。  
 ※イベント開催日は白雲洞でも販売いたします  
 【商品名】「抹茶ことはじめ」  
 【価格】 ①5,500円(税込)(茶筌・茶碗・抹茶付)  
 ②4,180円(税込)(茶筌・茶碗付)



「抹茶ことはじめ」(茶筌・茶碗・抹茶付)

## 2. 箱根強羅公園について

### (1) 営業時間

3月～11月 9:00～17:00(最終入園時間16:30)

12月～2月 9:30～16:30(最終入園時間16:00)

休業日 年中無休(年3回メンテナンス休園日あり)

### (2) 入園料

大人650円(税込)・小学生以下無料・愛犬無料

・箱根フリーパス、のんびりきっぷ、大涌谷きっぷをご利用の方は入園無料  
 (デジタルチケットを含む)

・当日・翌日再入園可

※レシートを窓口でご提示ください

※箱根強羅公園・箱根美術館共通入場券は再入園いただけません

3. お問い合わせ 株式会社小田急箱根 施設事業部  
Tel. 0465-32-6827 (平日9:00~17:00)  
ホームページ <https://www.hakonenavi.jp/gorapark/>  
公式Instagram【強羅公園】 @hakone\_goura\_park

以上

#### 箱根強羅公園（はこねごうらこうえん）

箱根登山電車の終着駅、強羅に大正3年（1914年）に開園された、日本初のフランス式整型庭園です。フランス式整型庭園とは、平坦で広大な敷地に左右対称に幾何学的に噴水池などを配置した特徴がありますが、強羅公園は傾斜面に作られています。当時は強羅エリアの開発にあわせて計画され、別荘の居住者や開園5年後に開通した「箱根登山鉄道」の多くの利用者に親しまれてきました。

現在も昔も変わらない広い空と山々に囲まれた開放的な公園は、2004年に体験工房「箱根クラフトハウス」、後にサンドイッチ料理レストラン「一色堂茶廊」がオープンし、1日を通して様々な体験を楽しめるのが魅力です。

#### 白雲洞茶苑（はくうんどうちゃえん）

箱根強羅公園にひっそりと佇む「白雲洞茶苑」は、白雲洞をはじめ、不染庵、対字齋、寄付など4棟の茶席と、当時は岩風呂として使われていた白鹿湯から成り立つお茶室群です。流儀や作法にとらわれず、自由楽しくお茶席を楽しんでいただける「田舎家の席」として親しまれていました。

2001年には登録有形文化財（建造物）として指定され、明治・大正・昭和に渡り、近代数奇の「三大茶人」と呼ばれた鈍翁、三溪・耳庵に引き継がれ110年以上も大切に保全されています。